

令和7年度 第1学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

教科	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	- 平仮名の言葉や文を正確に読んだり書いたりする力 - 促音、拗音、長音、撥音、句読点や助詞の「は・へ・を」を正しく使って、自分の思いや考え、体験したことなどを短い文で書く力 - 行動したことや経験したことについて、事柄の順序を考えて話したり相手の話を最後まで聞いたりする力	- 平仮名を正しく読んだり書いたりすること。 - 促音、拗音、長音、撥音、助詞や句読点を正しく使い、文を書くこと。 - 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づき、事柄の順序を考えて話すこと。 - 相手の伝えたいことを考えながら、最後まで聞くこと。	- 毎授業において、言葉集め、言葉遊びの学習や、音読、短い文を書くことのいずれかを行うことを通して定着を図る。今後の片仮名や漢字の学習でも、正しく読んだり書いたりすることや文章の中で使うことができるように同様の取り組みを継続する。 - 動作化（MIM）を取り入れて、促音、拗音、長音、撥音の理解を深める。 - 行事後に振り返り作文を書く活動を通して、助詞や句読点のある文章を正しく書けるようにする。 - 他教科でも、教師が例文を示すことで自分の思いや考えを書くように促す。 - 教師が話型を示し、順序に気を付けて話すことができるように指導する。話す活動の前に、話す内容の順序を考える時間を設ける。 - 話の聞き方の指導をモデルを掲示するなどして日常的に行い、定着を図る。
算数	- たし算やひき算の計算が正確にできる力 「なんばんめ」「～からなんにん」などの順番や、問題文、絵などから題意を読み取り、正しい答え方で答える力 - 具体物の操作をしたり、友達と活動したりする中で、分かったことや考えたことを伝える力	- たし算、ひき算の計算を正確にすること。 - 問題で問われていることを正しく捉えて立式し、解答すること。 - 数の理解を深めたり、長さ、広さ、かさなどの適切な数量感覚を身に付けたりすること。	- 授業の導入や家庭学習で毎日繰り返し復習問題に取り組ませ、計算力の定着を図る。 - 具体物操作や身体表現を取り入れて実感を伴った理解ができるようにする。また、式や絵を見て算数の言葉を正しく使って説明する活動を繰り返し行う。 - ペアやグループ活動などで具体物操作（ブロック、水など）を行い、実感を伴った理解を得られるようにする。また、伝え合い、学び合いが発生するように環境づくりを行う。

令和7年度 第2学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国 語	- 平仮名・片仮名や漢字を適切に使い、文や文章を正しく書く力 - 順序に気を付けて最後まで話を聞く力、話す力	- 片仮名、漢字を正しく文の中で書くこと。 - 長音、拗音、促音、拗音などの表記、助詞、句読点、かぎを文や文章の中で適切に使うこと。 - 大事なことを落とさずに聞くこと。 - 順序に気を付けて話すこと。	- 漢字のミニテストや毎日行う漢字の家庭学習で、読み書きの定着を図る。 - 主語や述語、助詞や句読点を使った文を書く機会を増やすために、日記に取り組み、継続的な指導をしていく。 - 学校だけでなく、家庭学習でも漢字と音読の宿題を出し繰り返し復習することで、より定着できるようにしていく。 「いつ、だれが、なにを」に注意して、最後まで話を聞くことができるようにする。 - 朝の会でスピーチを取り入れ、組み立てメモを活用して事柄の順序を整理して話す経験を重ねていく。
算 数	- 具体物の操作や図から、ものの形や量の感覚を養う力 - 既習事項を基に、課題解決に活用する力	- 測定、単位、時計などに関する正しい知識と技能をもって正確に計算すること。 - 問題文を正しく理解し、既習事項を基に問われていることについて立式し、解答すること。	- 長さや時計などの問題に対しては、具体物を活用し、実際に測る・比べる・体感する学習活動を多く取り入れ、体験を通して学ぶ機会を用意する。 - 数直線や、棒グラフなどの図や表などを使用した多様な解き方が出るように他の考えや友達の考えを交流させ、学び合いの場を設定する。 「分かっていること」「聞かれていること」に下線を引かせることで、題意を正確につかむことができるようにする。

令和7年度 第3学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

教科	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	- 日常生活に必要な国語の知識や技能を自らで積み重ねていく力 - 筋道を立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力	- 語彙が少ないため、豊かに思考したり表現したりすること。 - 相手の伝えたいことを考えながら話を聞いたり、相手や目的に応じて自分の思いや考えをもって話したりすること。	- 辞書を活用し、疑問に思ったことはすぐに調べられるようにする。 - 朝学習の時間などで、読み聞かせや読書の時間を設ける。 - 他教科でも、聞く、話すことを日常的に意識できるように、友達の発表の後に意見や感想を伝え合う機会を設定する。 - 朝の会や帰りの会の日直スピーチなどで、話をしたり聞いたりする機会を設ける。
社会	- 資料から必要な情報を正しく読み取る力 - 資料活用と生活体験とを結び付けて、課題を見付ける力	- 資料から必要な情報を読み取ること。 - 日常的な体験を通して、自分の生活と結び付けて理解すること。	- 地図や資料の読み取り方や社会科における用語について一つずつ丁寧に指導し、一人1台端末を活用して、ICT機器を使った調べ学習を取り入れる。 - 見学や体験的な学習を数多く行ったり、実体験から考える活動を多く取り入れたりする。

算数	・見通しをもち、道筋を立てて考察する力 ・計算の意味や性質を理解し、乗法の計算をする力	・文章問題を読み取り、立式すること。 ・前年度までの既習内容を基に、正しく計算すること。	・習熟度別算数授業の中で、学力向上推進ティーチャーなどの個別支援のもと、文章問題の「分かっていること」と「質問されていること」を理解することを徹底する。また、個人の習熟度に合った図や具体物で視覚的に題意を示すことができるようにする。 ・朝学習の時間や家庭学習などで、ＩＣＴ機器を活用したドリル学習に繰り返し取り組ませることで基礎基本の定着を図る。
理科	・自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする力 ・見いだした問題を興味・関心をもって追及する力 ・様々な事象と理科的な言葉を結び付けて活用する力	・「課題設定」「予想」「結果」「考察」「まとめ」などをめあてに沿って書くこと。 ・設定した課題を考察、まとめまで興味をもって解決すること。 ・学習を積み重ねて、単元と単元のつながりを意識し、既習学習を活用すること。	・「課題設定→予想→計画→実験・観察→結果→考察→まとめ」の学習の流れで、児童が自ら考え、表現しながら学習を進めることができるようにする。 ・児童の主体的で対話的な時間を設定し、児童同士で学びを深められるようにする。 ・探究的な学習や、実生活とのつながりを意識した体験的な学びを継続して行うようにする。教師が既習の理科的な言葉を意図的に活用するようにする。

令和7年度 第4学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・既習した漢字の読み書きの定着のために、日常的に漢字を活用する力 ・文の基本的な構成要素の決まりを理解し、正しく活用する力 ・自分の考えを文章や言葉にして伝える力	・漢字を正しく書いたり、読んだりすること。 ・主語述語など、文の基本的な構成要素やローマ字を理解し、活用すること。 ・伝える内容に合わせて文章を書くこと。	・漢字の書き取りを繰り返し練習する。また、小テスト等を活用して書けるようになるまで授業中や放課後の時間を活用して何度でも取り組めるようにすることで基礎力の定着を図る。 ・文章を書く課題を出したり、自分の考えを書く学習を増やしたりして文法等の指導を行う。また、自分の考えを交流する活動を通して、考えを筋道立てて説明できるよう指導する。
社会	・社会的事象の見方、考え方を働かせて、課題解決するために予想を立てて考える力 ・社会的事象の見方、考え方を働かせて、課題について調べる力 ・都道府県の地理的環境の特色を学ぶ力	・課題解決するための予想を立てること。 ・課題解決するためにいろいろな手立てで調べること。 ・都道府県の地理的環境や特色を覚えること。	・単元導入時に児童が社会的事象の見方、考え方に基づいて予想が立てられるような資料を提示する。また、児童にとって身近な地域教材などを取り上げられるよう教材研究を行う。 ・どんな児童でも予想が立てられるような地域教材を活用した導入を行う。 ・単元の初めに調べる視点を明確にし、共有してから調べる活動に入る。 ・授業前や授業後などに地図帳を使い、都道府県の位置を学習する時間を設ける。月に一度程度、都道府県の位置と名前の反復テストを行う。

算数	・基礎的な四則計算を正しく計算する力 ・分度器や三角定規等、用具を活用して正確に角度を測ったり、作図をしたりする力 ・自分の考えを式や図表に表す力。また、他者の考えを読み取る力	・正しく、短時間で計算をすること。 ・分度器や三角定規を用いて正しく角度を測ったり、作図をしたりすること。 ・筋道立てて自分の考えを説明すること。また、友達の考えを理解しようとする事。	・算数の授業の導入で既習事項の復習の時間を設け、基礎的な四則計算の定着を図る。 ・繰り返し計算ドリルやeライブラリを活用して角度を測ったり、作図をしたりする課題を月に一度以上出す。 ・授業では既習事項を基に課題解決できるよう、個別に声掛けする等の支援を行う。また、解答の際は一つの方法だけではなく、多くの方法で求められるよう、交流の時間を設ける。その際、自分の考えを筋道立てて伝え合えるよう指導する。
理科	・理科的事象を日常生活と関係付けて考える力 ・問題解決するために仮説を立てて考える力 ・問題解決に向けて自分の考えを表現する力	・理科的事象に出会ったときに日常生活に関係付けて考えること。 ・問題解決するために、仮説や予想を立てて実験すること。 ・問題解決に向けて予想や仮説、考察などを科学的なデータや観察結果に基づいて表現すること。	・単元の導入時に日常生活と関係付けられるように教材研究を行う。また、日常の経験を基に自身の考えを説明させる。 ・問題解決するために立てた仮説や予想を調べるときは、児童が安全に配慮した上で自由に実験を行えるように道具の準備などをする。 ・自分の考えを筋道立てて説明できるよう、実験結果を基に、考えを交流する時間を設けることで深い学びができるようにする。

令和7年度 第5学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

教科	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・第5学年までに学習する文法を理解し、文や文章の中で適切に使うことができる力 ・読書や音読を通して、自分の考えを広げたり、語彙を豊かに使ったりする力 ・自分の考えを明確に表現するために、筋道の通った文章を書く力	・主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係など、文節と文節の関係を正しく理解すること。 ・読書や音読に積極的に取り組み、語彙を増やすこと。 ・書く内容の中心を明確にして、文章の構成を考えて書くこと。	・文章を作る際に、主語・述語のねじれがないか、修飾・被修飾の関係が正しいかなど、自分の書いた文章を見直すように指導する。 ・定期的に図書室を利用し、読書に親しませたり、毎日の音読に積極的に取り組ませたりする。 ・メモ等で構成をまとめ、文章全体を見通してから書くようにする。
社会	・複数の図や表などの資料から必要な情報を正しく読み取り、情報の意味を考える力 ・日常の社会生活から疑問を考え、学習問題を見出す力	・資料から必要な情報を正しく読み取ったり、複数の資料を関連付けたりして、情報の意味を考えること。 ・自分の生活と結び付けて、課題を見出すこと。	・教科書や資料集の図や表などの資料を基に、問われている内容に基づいて、数値などを読み取る指導を通して、資料を読み取る視点を明確にして考えることができるようにする。 ・学習内容と自分の生活を結び付けて、社会的事象として考えることができる、資料や話題を提示する。

算 数	・問題の聞かれていることを捉えて立式する力 ・正しく計算する力 ・用具の使い方を理解し、正しく用いる力	・問題を正しく捉えて、立式したり、計算したりすること。 ・分度器やコンパスなどを正しく使用し、角度を調べたり、図形を描いたりすること。	・文章問題を図や数直線を用いて整理し、立式するように指導する。 ・毎時間の授業開始時に、前学年までの計算の仕方を復習できるようにする。 ・計算に関する単元では、既習事項を確認しながら計算できるように、掲示物を示す。 ・図形に関する単元では、前学年までの図形の学習を復習し、確認しながら作図等に取り組むように指導する。
理 科	・予想や仮説を基に、解決方法を発想する力	・日常生活と関連させて予想を行い、実験、観察方法を考えること。	・導入では、身近な生活経験を取り上げることで、根拠のある仮説を考えて、論理的に物事を解決できるように指導する。

令和7年度 第6学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	育成を目指す資質・能力	児童・生徒の実態を踏まえた課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	- 文章全体の構成を明確にして文章を書いたり、話の内容が明確になるように話したりする力 - 日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付く力	- 文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開について理解し、文章を書いたり、話したりするときに学んだことを生かすこと。 - 読書の楽しさや読書の有効性を実感しながら、日常生活の中で、主体的、継続的に読書を行うこと。	「読むこと」で学習した「初め・中・終わり」の文章構成の理解を、「書くこと」にも汎用させるとともに、さらには「話すこと」の場面にも広げて活用できるよう「構成メモ」を基に考えることができるようにする。 - 読書ノートを活用し「自分を支える言葉との出会い」や「新しい考えの発見」などの、読書の意義を実感する活動を通して、自分の考えを広げることなどに役立つことに気が付くようにする。
社会	- 資料から目的に合わせて、自分に必要な情報を読み取るとともに、それらの情報を関連付けて自分の考えを表現する力 - 社会科で新出する「用語」の意味を正しく理解するとともに活用する力	- 資料から事実や現状を正しく読み取ること、そこから自分の考えをもち表現すること。 - 新しい言葉の意味を理解するとともに、自分の考えを社会の用語を使って説明すること。	- グラフや資料、年表の読み取り方について、順序立てて丁寧に指導する。また、「社会的な状況や歴史的な事実」から自分の考えや思いをもたせる。 - e ライブラリ等を活用し、自分の課題を意識させるとともに、繰り返し復習に取り組ませることで、知識を定着させていく。

算数	・整数・小数・分数の四則計算、もしくはそれらが混ざった四則計算を正しくする力 ・既習事項を基にして、新出事項について自分の考えをまとめ、分かりやすく伝える力	・分母の最小公倍数を用いて通分し、正しく異分母の分数の加法・減法の計算をすることまた、計算のきまりを活用して、工夫して計算すること。 ・既習事項（例：三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求積）を用いて、新出事項（例：多角形、複合図形）について考えるとともに、解法について分かりやすく説明すること。	・「計算貯金」を活用し、取り組んだ後に、互いの考えや、計算のポイントとなる部分について交流できるようにする。 ・「分かっていること」「考えたこと」を整理するとともに、自分の考えを絵や図、表、式、数直線図、線分図にして表現する。自身をもって説明できるように学習内容に応じて、ペアやグループ、学級全体等、適切な学習形態を選択できるようにする。 ・少人数指導担当教員を習熟度別に年間で固定し、個々の学習状況に応じた丁寧な指導を行う児童が主体的に取り組むことができるよう、習熟度の変更は適宜可能とする。
理科	・日常生活やこれまでの生活経験と結び付けて、「問題」を設定する力 ・理科で新出する「用語」の意味を正しく理解するとともに活用する力	・既習事項とこれまでの生活経験を生かして、自分の考えを言葉や図で表現すること。 ・新しい言葉の意味を理解するとともに、自分の考えを理科の用語を使って説明すること。	・「問題を見付ける」→「問題」→「予想」→「計画」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の流れを継続して大切にする。 ・e ライブラリ等を活用し、自分の課題を意識させるとともに、繰り返し復習に取り組ませることで、知識を定着させていく。